

<p>単元目標 (育成したい資質・能力)</p>	<p>○身の回りにあるものの形について、その概形を捉えることで、およその面積や体積を求められることを理解し、面積や体積を求めることができる。 [知識及び技能]                  ○図形を構成する要素や性質に着目し、身の回りにあるものの形について、概形を捉えて、およその面積や体積の求め方を筋道立てて考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等]                  ○既習の面積や体積の学習に基づき概測などを用いて目的に応じて能率よく測定した過程を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用したりしようとする。 [学びに向かう力、人間性等]</p>	<p>二つの側面                  A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力                  B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>三つのプロセス                  ①発見・蓄積                  必要な情報を確かに取り出す                  ②分析・整理                  情報を比較し、関連付けて整理する                  ③再構築                  自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
------------------------------	---	--	--

単元の流れ ○主な学習活動 □指導上の留意点	○「読み解く力」を育成するための手立て	「読み解く力」の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿		家庭学習例
		A：文章・グラフ・図から	B：やりとりから	
<p>①②③④⑤ 複雑な形をしている平面図形について、その概形を捉えることで面積を求められることを理解する                  ○方眼を利用して琵琶湖のおよその面積の求め方を考える。                  ○東京ドームや甲子園球場、豊似湖の形を基本図形の概形と捉え、およその面積の求め方を考える。その考え方を使得、教室にある身の回りの物のおよその面積を求める。                  ○それぞれの家庭で撮影してきた物のおよその面積を求める。                  ○北海道の形を既習の図形に見立て、およその面積を求め、求め方を説明する。                  ○滋賀県の形を図形に見立て、およその面積を求め、北海道と比べる。                  □複雑な形をしている平面図形を既習の多角形に捉え直す考え方を働かせる。それが一つの図形で完結するとは限らず、場合によっては複数の図形で構成しても良いことを伝え、多様な考え方を働かせる。                  □地図を使って、都道府県や市区町村などのおよその面積を求める。                  ⑥⑦⑧ 身の回りにあるものの形について、その概形を捉えることで容積や体積を求められることを理解する                  ○ランドセルの形を基本図形の概形と捉え、およその容積の求め方を考える。                  ○身の回りにあるいろいろなもののおよその容積や体積を求める。                  ○友達や家の人向けへの問題づくりに生かす。                  □身の回りのものを既習の角柱や円柱に捉え直す見方を働かせる。                  ⑨ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する                  ○学習内容の定着を確認する。                  ○「つないでいこう 算数の目」に取り組む。                  □本単元でどのような数学的な見方・考え方を働かせることができたのか振り返り、価値付ける。</p>	<p>○目的意識をもつための工夫                  ・児童にとって身近な琵琶湖のおよその面積を求めることによって、およその面積を求める良さを実感する問いをつくる。                  ○「分析・整理」するための工夫                  ・児童が概形を三角形と捉えるのと四角形と捉えるのとどちらの方が実測値との誤差が少ないのか、比較し、より実測値との誤差が少ない形を見いだせるよう支援する。                  ○「再構築」するための工夫                  ・既習事項を使い、求めてみたい面積や容積・体積について、どの概形を用いるとおよその値が求められるのか、児童が自分なりに道筋を立てて、解決する見通しをもてるよう支援する。                  ・「まとめ」「適用問題」「ふりかえり」を通して「わかった(かも)」を「(確実に)できる」につなげられるようにする。                  ◇ICTの活用                  およその面積や体積を求めるための対象物を端末の撮影機能を使い、静止画として保存する。それに実際に測定した長さを書き込んだり、補助線を加えたりすることで、どんな既習の図形に捉え直して求めたのか、考えを説明する手立てとする。</p>	<p>①文章や資料等から、目的に応じて情報を取り出す・既習事項との違いや疑問などを見つけ出し、課題をつくり出している姿。                  ②様々な情報を比較し、目的に応じて分析したり、整理したりする                  ・図を概形に見立ててより近い形に捉え直そうとする姿。                  ③解釈した内容を経験や知識と結び付けながら考えを深めたり、創造したりする                  ・よりよい形に捉え直して実測値に近いおよその大きさを求めようとする姿。</p>	<p>①相手の言葉、しぐさ、表情をもとに相手の思いを感じ取る                  ・友達の考えを聞いたり、やりとりを通したりして課題を共有している姿。                  ②相手の思いや意図を自分の考えや経験と比較しながら整理する                  ・交流において、友達と自分の考えを比較・検討し、簡潔・明瞭・的確な説明となっているか吟味している姿。                  ③やりとりを通して、相手の思いや意図を踏まえながら、自分の考えを確かなものにしたり、創造したりする                  ・話し合いや友達の考えを試す場面を通して、友達の考え方や説明のよさを、自分の説明に生かしている姿。</p>	<p>②の後                  ○自分の手のひらや家の中にある求めてみたい物のおよその面積を求める等。                  ○家庭内にあるもので求めてみたい面積を端末で撮影する等。                  ⑤の後                  ○自分の求めてみたい都道府県や市町村のおよその面積を求める等。                  ⑦の後                  ○いつも使っているコップの容積を求める等。                  ○教室にあるものを概形に捉え直した問題を家の人に取り組んでもらう等。                  ○問題づくり</p>